



こんにちは

# 村田 けい子 です

6月議  
会報告

2017  
7.21  
No 111

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868



## 7.20 「ケアポートみまき」の視察研修

社会文教建設常任委員会では、所管である高齢者福祉の実際を見ようと東御市の「ケアポートみまき」を訪れ、事業の実際についての説明を受け、館内を案内していただきました。

ケアポート御牧の創設は、財団法人日本船舶振興会（現日本財団）の地域福祉創造プロジェクトのケアポート事業モデル第3号として、平成7年特別養護老人ホームと在宅支援センター御牧の家を母体に建設されました。

何とその設計には故 日野原重明氏がかかわり、理想的ともいえる設計と人的配置が実現されていました。介護保険が始まる前から『保健・医療・福祉』の総合施設として日本財団の支援を受け、土地は当時の北御牧町から提供されスタート。御牧温泉診療所が併設されてその後、温泉アクティブセンター（プールにトレーニングジム）が加わり、デイサービスセンターやショートステイの機能も追加されてまさに、健康福祉増進の拠点ともいえる頼もしい施設です。

デイサービスセンターは66名定員に対し、職員は45名という手厚い職員配置になっています。立科からもショートステイで数名がお世話になっているということです。

施設内には、職員のための保育所も設けられ、6名まで預けられるように保育士の確保をしているそうです。保育所があることと、手厚い職員配置により離職率はたいへん低く、安定した事業展開が行われているとのこと。職員は全部で174人、正規90名、常勤の臨時職員50人、パート・アルバイト30名、さらに運転士などはシルバーさんに委託しているとのこと。地域の雇用確保に大きな役割を果たしています。

事務スペースには、様々な事業所が1か所に集められ、利用者についての情報共有やケアのノウハウについての交流が日常的に行われているとのこと。ここには（公益財団）

身体教育医学研究所が置かれ、日常的な介護予防についてのトレーニングの指導が行われているほか、職員の技術指導にもあたっているとのこと。プールなどトレーニングセンター利用は会員制で、大人1,000人、子ども400人の会員が利用。たてしな保育



県産材を潤沢に使ったデイサービスセンター。建設費の半分は行政からの支援があった。七夕が飾られている。ちょうど大型スクリーンで、上田西と佐久長聖の熱戦が繰り広げられており、利用者は釘付けで応援していた。



広々とした保育所

園や小学校での体力強化でも、お世話になっているという。「ポッチャ」というスポーツの指導にも力を発揮して、介護度の重い高齢者にも指導し、意欲を高めて改善につながっているそうです。

プールの水は、井戸を掘って湧き出た湯を利用しており、水道料金が掛からないという恩恵も。今後、障がい者スポーツにも取り組みたいとのことです。

こうした施設が身近にあるのはうれしいことです。



トレーニングセンター、午前中は介護予防の高齢者、午後から夜にかけては近在の労働者など一般の方たちが健康増進のために利用。専門のトレーナーがついて指導している。



クマの爪跡？

今週の  
パチリ

水源地「水出」への途中に爪跡がしっかりとついた木がありました。ワイワイガヤガヤと40人近くの大人たちの話し声に、この日はクマも出てきませんでした。居るんですね。

# 7.18 ゴミ焼却・資源物・最終処分場・し尿処理の施設見学

川西保健衛生施設組合の新議員がそろったところで、早速担当する施設見学が計画され、参加しました。議長には佐久市の小林松子議員、副議長は立科町の村松議員が選ばれました。

可燃物・粗大ごみ・資源ごみ・不燃物・し尿などがここに集められ、処理されている行程を見学しました。新クリーンセンター稼働後も、引き続きお世話になります。



袋に入れられた可燃物がここに投入されクレーンでボイラーで焼却される。2個のボイラーが稼働中。



中央監視室。ダイオキシンが出ないように900度で焼却される。



焼却灰をトラックで搬出。



焼却灰がここに集められ、埋め立てされる。焼却灰はさらに埼玉県に運ばれ、建築資材として再生利用される。埋め立てはすでに9割も埋まっており、延命のためにも更なる減量計画が必要です。新クリーンセンター建設までは可燃物については、ここでお世話になります。

その様子を中央の監視室で監視。夏場は水分の多い残渣があるため、重油などの助燃材が多く必要とのこと。

適当にビニールやプラスチックごみが混入している方がよく燃えるとのことのお話。



左はビン類。右の画像は、不燃金属のブロック。アルミ・鉄缶の分別後に再利用できないものが圧縮され、埋め立てられるといえます。



## 臭わない! し尿処理場

し尿処理場と聞いて覚悟していましたが、あのツンと来るアンモニア臭はどこにもありませんでした。

バキュームカーから集められたし尿は、専用の受け入れ口から直接処理層に送られ、まず、異物や繊維質を破碎し、その後、うわ水が分離され、繊維質部分は乾燥・脱臭され、最後は炭化装置により、肥料・土壌改良剤に生まれ変わります。



1体百円で販売され、農家などに利用されている。



微生物の働きにより、分解が進み、臭いを無くす行程の後、活性炭の脱臭装置により完全に臭いがなくなる。



破碎装置

これほどまでに完璧に処理され、しかも残渣は炭化され、土壌改良剤として再利用される。「し尿」は完全リサイクルができる資源として再認識しました。

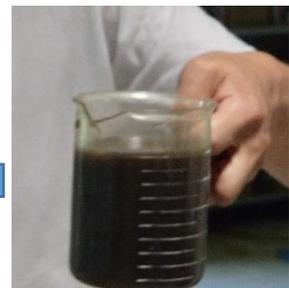
根張りがよくなるとのこと。私も5袋買って、早速、花畑に散布しました。



色も臭いもなく処理された。これで河川に放流する。



微生物の働きで、ずいぶんきれいになっている。



し尿から分離された液体